

現地確認訓練報告

平成 29 年 11 月 6 日に吉敷地区防災会は現地確認訓練を行った。これは、平成 28 年 8 月 29 日(日)に実施した前段図上訓練で災害発生時に危険な箇所、安全な避難場所、住民が安全に避難する経路などを検討した結果に基づき、再度現地で確認する作業である。防災会のメンバーは、5つの区域に分かれ、それぞれ前年度の検討結果と照らし合わせて確認した。訓練方法の詳細については[現地確認訓練資料](#)に記述してある。

以下、各グループで行った確認訓練の実施報告書を順番に記載する。



吉敷地区防災会「現地確認訓練」(第1グループ)実施報告書

- 1、担当地域:吉敷畑、中尾東上、中尾東下、中尾西、緑ヶ丘
- 2、担当地域の確認事項並びに確認結果

確認事項	確認結果
河川、湖沼、地溝幹線溝等	<ul style="list-style-type: none">●中尾東上では昨年確認した内容に変更なし●中尾東下では昨年確認した内容に変更なし●中尾西ではゴミステーション横の橋架と公民館の上流の橋架など補強が必要
崖、急斜面、断層等	<ul style="list-style-type: none">●緑ヶ丘との境界付近で土石流による道路破壊の可能性あり
道路網、避難経路、予備避難経路等	<ul style="list-style-type: none">●迂回路があるところの人は避難できるが、ないところの人は避難できず孤立する
避難所、予備避難所等	<ul style="list-style-type: none">●緑ヶ丘の公民館は要注意 赤田神社に変更したほうがよい●大内義興駐車場は要注意
総括	<ul style="list-style-type: none">●中尾東上、中尾東下、中尾西では自宅で待機(中尾西では2軒孤立する)●吉敷川水門の管理者を把握する必要がある

吉敷地区防災会「現地確認訓練」(第2グループ)実施報告書

1、担当地域:赤田、佐畑

2、担当地域の確認事項並びに確認結果

確認事項	確認結果
河川、湖沼、地溝幹線溝等	<ul style="list-style-type: none"> ●西寺川上流に治水ダム建設中 ●木崎川上流に砂防ダム建設済 ●千畳原では、増水時に浸水の可能性あり
崖、急斜面、断層等	<ul style="list-style-type: none"> ●西寺川沿いの3軒…地すべりの危険性あり ●西寺川下流域…崖崩れの危険箇所なし ●落石注意の看板あり…地すべりの可能性あり ●千畳原墓地から鉄砲水が出たことがある …情報を得る必要がある
道路網、避難経路、予備避難経路等	<ul style="list-style-type: none"> ●激流化注意 ●道路がふさがれると愛児園が孤立する恐れあり ●避難路が複数ある
避難所、予備避難所等	<ul style="list-style-type: none"> ●悠々苑と玄清寺が予備避難所に該当する
総括	<ul style="list-style-type: none"> ●西寺川上流域は砂防ダムの建設により危険は回避されている ●崖崩れの危険箇所に該当する家に対しては情報提供することが望まれる ●木崎川上流は特に問題なし ●千畳原は地形上、大水のときには鉄砲水の恐れがある …早めの避難が必要

吉敷地区防災会「現地確認訓練」(第3グループ)実施報告書

1、担当地域:中村、木崎、木崎団地

2、担当地域の確認事項並びに確認結果

確認事項	確認結果
河川、湖沼、地溝幹線溝等	<ul style="list-style-type: none"> ●木崎地区では予防治山工事工事中(H.30.3.30 完成予定) ●木崎配水池…特に問題なし

崖、急斜面、断層等	<ul style="list-style-type: none"> ●木崎川砂防指定地…特に問題なし ●朝田トンネル東入口付近傾斜地 2箇所…特に問題なし
道路網、避難経路、 予備避難経路等	
避難所、予備避難所等	
総括	

吉敷地区防災会「現地確認訓練」(第4グループ)実施報告書

- 1、担当地域:下東、大橋町、京面団地
- 2、担当地域の確認事項並びに確認結果

確認事項	確認結果
河川、湖沼、地溝幹線溝 等	<ul style="list-style-type: none"> ●前田川…河床の浚渫が必要(対照的に湯田地区のところは葦の繁茂が見られない)
崖、急斜面、断層等	<ul style="list-style-type: none"> ●この地区には崖と急斜面はない ●総合保健会館下に活断層が存在する
道路網、避難経路、 予備避難経路等	<ul style="list-style-type: none"> ●京面団地など2つの河川に挟まれた地域の経路を再検討する必要あり
避難所、予備避難所等	<ul style="list-style-type: none"> ●予備避難所として有効な建造物の管理者との協議により避難時の立ち入り許可の契約を締結する必要がある ●マンション等高層で堅牢な建造物を避難所として利用する許可を得る方策が必要
総括	<ul style="list-style-type: none"> ●総合保健会館下の活断層があるので、地震発生時の対応がカギとなる

吉敷地区防災会「現地確認訓練」(第5グループ)実施報告書

1、担当地域:上東、上東住宅団地、稲葉町

2、担当地域の確認事項並びに確認結果

確認事項	確認結果
河川、湖沼、地溝幹線溝等	<ul style="list-style-type: none"> ●ゴルフ場:溜池や山からの水による田や住居の被害発生の恐れあり ●吉敷第二公園裏の雨水貯留施設の完成により今後効果の確認をする必要がある ●稲葉団地中心付近低地あり床下浸水の恐れあり ●吉敷大橋付近の堤防、河川の整備の依頼を要する
崖、急斜面、断層等	<ul style="list-style-type: none"> ●ゴルフ場正面、南側の崖崩れの恐れあり ●ゴルフ場登り口右側の崖崩れの恐れあり
道路網、避難経路、予備避難経路等	<ul style="list-style-type: none"> ●大雨の際は、ゴルフ場登り口や土師八幡宮への避難は困難を要す
避難所、予備非難所等	<ul style="list-style-type: none"> ●土師八幡宮、ゴルフ場、マックスバリュー、多々良造園、県住ふれあい広場、奥野工務店、あんの医院、テニスコート、くすりのレデイ等 <p style="text-align: center;">(車にて通過観察)各所に依頼、確認</p>
総括	<ul style="list-style-type: none"> ●住民に注意を喚起する必要がある。

第3グループの現地確認については、防災検討委員会幹事森屋さんからの以下のような詳細な報告がある。

吉敷地区防災会「現地確認訓練」(第3グループ)実施報告書(詳細)

1、担当地域:中村、木崎、木崎団地

2、想定される災害

中村、木崎地区で想定される主な災害は、地震災害を除けば、豪雨時の木崎川氾濫、並びに木崎川西側山斜面の土砂崩れとその土石の流入により塞き止められた木崎川の氾濫による浸水被害である。

今回の現地確認では、前回実施された危険確認箇所を基に、①木崎排水池及び予防治山工事現場、②木崎公会堂奥の木崎川砂防指定地、③朝田トンネル北東側入り口付近の斜面、の3ヶ所を重点に確認調査した。

3、確認箇所及び所見

①木崎排水池及び予防治山工事現場

木崎排水池は通水管に沿った登坂通路が確認できたが、施設自体が進入禁止であるため排水池そのものの確認は出来なかった。

排水池通水管の北側道沿い70～80m上った場所に以前より設置されていた砂防ダムが土砂の堆積でその役割が果たせなくなっていたため、現在、旧砂防ダムより20m上流に新たな砂防ダム(木崎地区平成29年度予防治山工事)が建設されている。来年3月30日が完成予定であるが、これにより当地区の土砂災害抑制が期待される。

②木崎公会堂奥の木崎川砂防指定地

木崎川砂防指定地の砂防ダムが建設されるまでは、その下流にある民家は大雨のたびに頻繁に浸水被害が発生していたという。現在は砂防ダムのお蔭で大きな被害はなくなっているようだが、やはり現在でも豪雨の際には家屋そばを通る通水溝の縁ぎりぎりまで水が溢れる状態が発生するという。この原因はダムから100m程度下流で通水溝幅が急に狭くなっているためと思われ、今後の拡幅工事が望まれる。

③朝田トンネル北東側入り口付近の斜面

前回調査に危険箇所マークがあったので調査確認したが、別段危険と思われる箇所は見当たらなかった。

(付記)今回は晴天時の調査であり、豪雨時災害の可能性を否定するものではない。

④その他の箇所

山崩れや土石流は木崎川をせき止め、その溢水は木崎川堰堤より低地にある中村地区、木崎地区に浸水被害をもたらす。

その最も予想される箇所が出雲大社分院と木崎排水池に挟まれた北側山斜面である。これは市のハザードマップでも指定されており、今回の現地調査でもその危険性が視認出来た。豪雨時の要注意箇所である。



1





2



3



4



第4グループでは、リーダーの田福さんを先頭に自転車と車を使って下東、大橋町、京面団地を見て回り、危険な箇所を再調査した。

吉敷地区防災会「現地確認訓練」(第4グループ)実施報告書(詳細)

1、担当地域:下東、大橋町、京面団地

2、想定される災害

下東、大橋町、京面団地の各町内で想定される主な災害は、地震災害を除けば、豪雨時の前田川と錦川の氾濫と上東地区から流れてきた水による浸水被害である。

今回の現地確認では、前回実施された危険確認箇所を基に、前田川と錦川の流域周辺のいくつかの地点を確認調査した。

3、確認箇所及び所見

①前田川の状況

前田川は湯田地区から流れてきているのであるが、湯田地区では川底がきれいに浚渫されているのに比べて、下東地区に入ったところからは一変して川底には葦が一面に繁茂していた(写真①)。このために、毎年大水のときには、土手の上端から1メートル近くまで水面が上昇している。雨量によっては越水して洪水となることもあるそうだ。



写真①

②京面団地の状況

京面団地は前田川と錦川に挟まれた地域にあり、洪水が起こったときに安全に避難する経路を見つけることが重要である。



写真②

③上東地区から下東地区に流入する水

豪雨災害のときには、下東地区の水路に上東地区から大量の水が流入してくる。そのために、しばしばこの地区は洪水に見舞われる。写真②は、上東地区から前田川に流れ込む水路を示している。



写真③

③下東、大橋町、京面団地の住民の一時避難場所について

この地区で災害が起こったときの一次避難所は吉敷地域交流センターや良城小学校などであるが、緊急の場合にとりあえず一時避難場所で身の安全を確保することが重要である。この地区には多くの公共の施設やマンションなどの鉄筋コンクリート作りの建造物があり(写真③、写真④)、災害時にこれらを一時避難場所として利用させてもらえれば人命の安全のためには万全である。山口県環境保健センター 薬庁舎、山口県総合保健会館、大和ハウス工業株式会社山口支店のビルおよび竹下ビルが当面避難させてもらいたい建物である。これらを含め、この地区に数多く建設されているマンションに緊急時にカギを開放していただくよう防災会で協定を結ぶべきであろう。将来的には、現在工事中の山口警察署の敷地内の児童相談所や福祉センターと契約すれば、この地区の一時避難場所として十分な収容面積を確保できる。



写真④

④前田川に設置された水位局

山口県土木建築部河川課のご努力により、前田川に設置された水位局を確認した(写真⑤、写真⑥)。しかし、2018年(平成30年)2月16日段階では山口県土木防災情報システムの水位局一覧には載せられておらず、本格的運用はまだのようである。

http://y-bousai.pref.yamaguchi.lg.jp/citizen/water/kwl_station_list.aspx

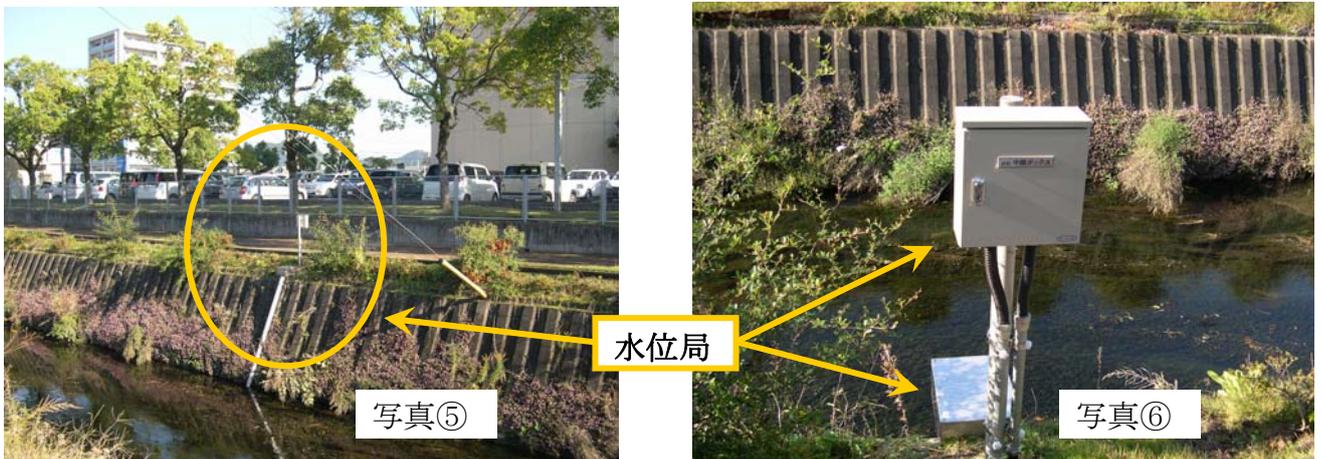
[水位観測局一覧 | 山口県土木防災情報システム.pdf](#)

これらの水位局は、その有用性については疑うべくもないが、設置費用が余りにも高額であるために設置数が限られ、必要な箇所すべてに設置できない点が問題である。しかし、対応策がない訳ではない。河川に架けられた橋の土手側の橋台に水位を示すスケールを取り付け、現在町中に溢れている監視カメラを取り付ければもっと安価に設置できるはずである。山口県と山口市には是非この型の水位計設置を検討してもらいたい。

《参考》酒匂川富士道橋の水位観測局と河川監視カメラ(これも設置費用が高額なようである。)

<http://blog.goo.ne.jp/odawahashibashi/e/8fa86928e442840e6222ae04cb83fd15>

[酒匂川 富士道橋の水位観測局と河川監視カメラ - 小田原の端々.pdf](#)



まとめ

今回、5つのグループに分かれてそれぞれ現地視察を行った。昨年の前段図上訓練で、各地区の実情に詳しい人が十分に時間をかけて検討していたので、現地視察では再確認することがほとんどであった。再確認を行った吉敷地域の危険箇所、安全な場所や建物、避難経路などを記載した地図を住民全員に周知することが必要である。また、地域の状況も次第に変化して行くので、今後も2、3年毎に再調査を行って地図の更新をしていかなければならない。